

ので、「今度のCSはどんな先生、どんなお友達かな。」と、とても楽しみに引越してまいりました。

ところが、私達が初めて伺った時は、教会に隣接する牧師館が老朽化のため取り壊される直前だったらしく、いくらか教会の玄関を叩いても人の気配が全くなく「聖日の朝なのに」と私はショックを覚えました。子供達にも淋しい気持ちを与えたことが、つい昨日の事のように思い出されます。「これは何か事情があるのだろう。」と教会に連なる者は推測できますが、不安と期待の交錯する中で一大決心をして、牧師の助言を求めるべく、初めて教会の扉を叩いた人が、その期待の数倍もの落胆を胸に歩み去る姿を、私は時々想像して心が痛みます。その時の、牧師の住まない上山教会は、医者のいない病院のような印象でした。

傷ついた者、苦しむ者を、いつでも迎え入れる準備の整った教会でなければ、この地に根を下している事にはならないのではないのでしょうか。創立百周年を祝う上山教会が、現在も牧師が常駐せず、墓地も持たないという現実を深く見つめて、今後の歩むべき道を神に問い、祈り、今年を宣教元年と考えて、もつと具体的に歩み出すべきだと思えます。

娘達はその後、四ツ谷の河村牧師の自宅で土曜の午後開かれる教会学校へ、喜々として通い出しましたが、すぐ無牧となってしまう、CSは黒沼先生に引き継がれました。以来添野牧師着任まで、先生一人に生徒二人の理想的な教育をしていただき感謝しております。上山に移って四年目に、主人も受洗を決意し、念願のクリスチャンホームを築く事ができました。私達家族にとっては、人生の最も重要な時期に、上山教会と、皆様との出会いがあつたと言えるようです。今後も教会の充実を願い、微力ながらご奉仕したいと思っております。

望みをいだいて

細 谷 せ き

上山教会の創立百周年記念誌発行に就いて何か書くようにと牧師先生より証しをするようにとすすめられました。省みますれば御教会に加えていただいてから早や四十年になりますが、本当に神の恵みの豊かなのに感謝いたしております。

東京の戦災に会い五月二十七日焼き出されました。山形に帰りましたところ縁あつて上山に嫁ぎ、上山で三人の子の母となりました。六日町教会に入れて頂こうと思ひました。梅津先生（牧師館）に参りましたところ、上山に教会があるからと、おっしゃいました。その時上山教会は梅津吉之助牧師が兼牧の折でした。それから副牧師中山先生がおいでになり、私も子供が一人与えられました。教会学校が始まりました。私の子供も教会学校に通つて居りましたが、中山先生が結婚し山沢さんとなり、その後、宮内先生が山形六日町教会の副牧師として上山教会に居住し、小池れいさん、五十嵐キヨさん達と一緒に住居して伝道いたしました。私の子供も六年生位になった時、教会学校に行くのがいやになり行かなくなりました。その時、私は健康を害し教会に出席出来ませんでした。その後、酒井信牧師が神学校を卒業して来て下さいました。上山教会では牧師を初めてお迎えし、そして幼稚園を始める為に古い武家屋敷のカヤ屋根を新しく造り、教団の援助を受けてそれを基金とし、町全体の寄附を集め大変苦労しました。教会を新築し幼稚園を始めました。そして先生が結婚いたしまして、ジャクソン信となりまして、十一年間伝道して下さいました。清水市村松教会に転任になりました。その後河村先生がお出になる迄の間、宮内教会、足立先生より大変お世話になりました。後藤さん、五十嵐キヨさん等協力して下さいました。小池こうさんも若かったものですから、いつも出席いたしました。柏倉アヤさん、藤島こうさん、斎藤文さん等、毎週の信仰の友でした。小池れいさんは保育園の園長として、会計長老として、クリスマス等にはいつも大変協力してこの教会を支えて下さいました。その後、岩槻教会よ